

### 3月の窓

2月19日は二十四節気の雨水でした。「水がぬるみ草木の芽が出始める頃」の意味ですが、翌日の新聞には、山形市の西公園のマンサクが咲き始めたという記事が出ていました。昨年の「3月の窓」でも山形市内の施設「まんさくの丘」にあるマンサクが開花したことを紹介しましたが、今回西公園にもマンサクがあることを知りました。3月6日は啓蟄で、山形にもやっと春が近づいてきました。調べてみると「蟄」は冬ごもりをしている虫のことで、「啓」は土の中から出てくることの意味があることがわかりました。この頃に鳴る雷のことを「虫出し」と言うそうです。春の雷を詠んだ句もあります。

#### **春もまた 雪雷や しのの山……………一茶**

信濃では、春雷と言ってもまだ雪が降ることがあるようです。

#### **下町は 雨になりけり 春の雷（らい）……………子規**

東京の下町の春の雷を詠んだものです。

2月の学校の様子や生徒の状況などを少し紹介します。

2月上旬鶴岡市で開催された「山形県声楽アンサンブルフェスティバル」で、音楽部が奨励賞を受賞し、3月に福島で開催される「第8回声楽アンサンブルコンテスト全国大会2015」に出場することになりました。男女あわせて十数名の少人数での合唱ですが、飾らない自然な合唱が評価されたものと思います。

運動部の大きな大会はすでに終了していますが、村山地区高等学校バスケットボール新人冬季リーグ戦で、2部1位となりました。その結果1部との入替戦に出場することになり、入替戦は、15日の日曜日、山形県を本拠地とするクラブチームパスラボ山形の試合の前に山形市落合のスポーツセンターで行われました。対戦相手は1部4位の山形学院高校で、今年度なかなか勝てなかった強豪校です。本校バ



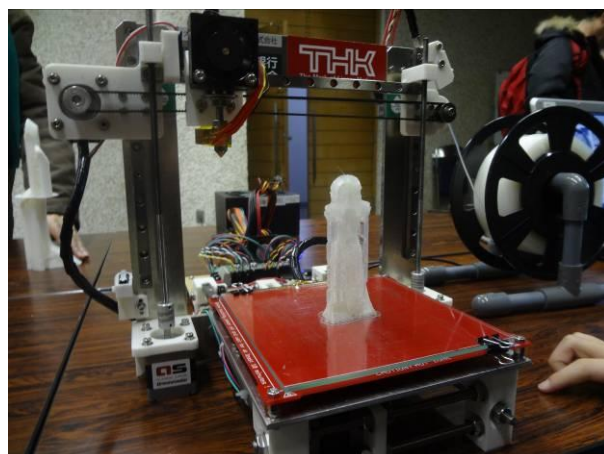
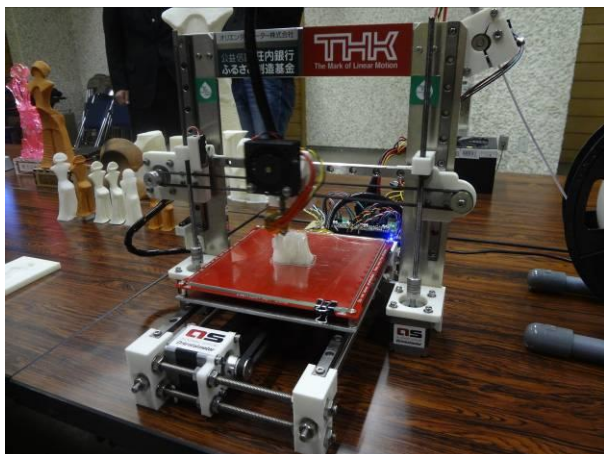
スケッチボール部は、新人チームになってから、前半リードされながらも後半追いついて終盤に逆転するという試合が多かったのですが、この試合でも最初リードされ、後半で逆転して勝利を収め、1部へ昇格いたしました。最初の写真は、試合開始のジャンプボールで本校選手が相手選手より高く跳んでボールに触れた後のもの、次の写真は、試合後応援席にお礼に来た時のものです。

20日には、遊学館で演劇部の如月公演がありました。今回の公演では、1年生が中心となって準備を進めてきましたが、2人の1年生から「如月公演のパンフレットに載せるあいさつ文をお願いします」と依頼がありました。「今回は何を演じるの」と尋ねると、「『トーキョー裁判』です」との返事があり、「『東京裁判』とは、ずいぶんむずかしいものになりそうだな」と思っていると、「大韓航空機爆破事件や、豪華客船の沈没事件なども出てくるんです」と説明してくれました。今話題の劇作家・坂手洋二さんの「トーキョー裁判」とのこと、どのような公演になるか楽しみにしていたのですが、この日会議の予定がはいついて、見に行くことができませんでした。これまで、演劇部の公演はすべて見てきたので残念でしたが、ご来場の皆さまにも、楽しんでいただけたと聞いております。

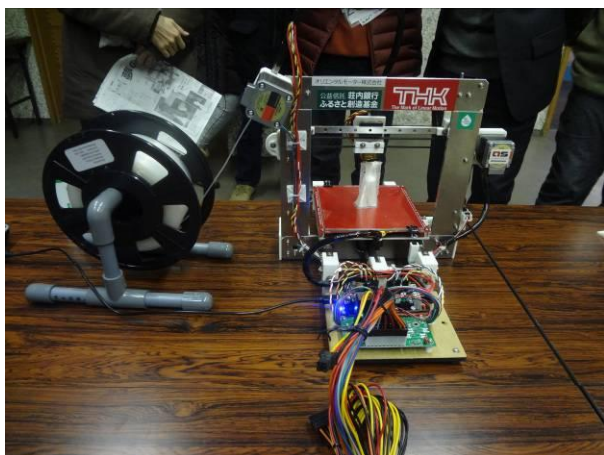
2月15日、県立博物館で「3Dプリンターでつくる国宝『縄文の女神』の実演見学会」があるという知らせがあり、見学してきました。実は、私が県立博物館に勤務していた時、和歌山県の無人の寺から仏像が盗まれる事件が相次いだことから、和歌山県立博物館の依頼で、県立和歌山工業高校が3Dプリンターで仏像のレプリカを制作して奉納した、というニュースを聞きました。この後、私は本校へ異動となったので、3Dプリンターを有する県内の工業高校の校長先生に「縄文の女神」を作れないかと話を持ちかけていたのですが、博物館の方では、県立産業技術短期大学校や東北芸術工科大学の協力を得て、3Dプリンターによる「縄文の女神」をすでに作製していました。産業技術短期大学校の3Dプリンターは、精密で高価なものですが、手作りの3Dプリンターを県内の工業高校に導入しようというプロジェクトが今年度進められてきました。県内の工業高校や製造業者で組織する「やまがたメイカーズネットワーク（YMN）」と県教育センターが企画し、すでに県内の11の工業高校に導入されました。今後は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校にも導入する計画があるそうです。

最初の写真は、3Dプリンターで縄文の女神を作り始めたところです。まず驚いたのは、「これが3Dプリンターなの？」ということでした。もっと複雑で精巧なものをイメージしていたので、以外でした。教育センターの担当の先生に聞いたと

ころ、県内の企業から部品を無償で提供していただき、公開されているプログラムや設計図をもとに、県内の工業高校が分業でパーツを製作してきたとのことでした。完成して高校に贈られたものと同じプリンターを使っての実演見学会となりました。次の写真は、完成したところで、高さ10センチ程度になります。完成までにかかった時間は約47分でした。



何を原料にしているのかとたずねたところ、次の写真の左側に写っている細いロープ状のプラスチックとの答えでした。直径は1.75ミリメートルで、約4メートル使用したそうです。次の写真は、同じプリンターを使って制作したものです。本校にもぜひ導入してくださいと頼んでおきました。



最後に、今月は霞城公園を紹介します。霞城公園は、市街地のほぼ中央に位置し、山形城跡の都市公園で、国指定史跡となっています。山形市のホームページによると、山形城は、延文元年（1356年）に羽州探題として山形に入部した斯波兼頼（最上家初代）が築城したのが始まりと伝えられ、現在の城郭は第11代城主最上義光（1546～1614）が築いたものが原型とされているとのことでした。山形城が別名「霞城」と呼ばれるようになった理由は、関ヶ原の合戦の頃に直江兼続（上杉軍）が富神山の麓からお城を十日間見ていたが、霞がかかって何も見えなかったこ



とから「霞城」と呼ばれ、現在もそれが定着しているため、公園も「霞城公園」と呼ばれているとも言われています。

霞城公園は山形市民の憩いの場となっており、さまざまなスポーツ施設や文化施設が設置され、市民に利用されています。さきほど紹介した県立博物館も霞城公園内にあります。今後、史跡として整備するため、スポーツ施設を中心に撤去あるいは移設されることになっており、すでに、市民プールやサッカー場などは撤去されました。当分の間の存続が決定した施設としては、県体育館や武道館があります。県立博物館も、代替施設（新県立博物館）が完成するまでは、存続が認められています。

霞城公園のシンボルの一つになっているものに、写真の最上義光像があります。次の写真は、義光像の説明の碑で、右手に持っているのは鉄の指揮棒ですが、鎧兜は時代考証にとらわれずに表現したものと説明がありました。



公園内では、史跡として山形城の復元が今も進められています。昨年7月に本丸一文字門が完成しました。県立博物館のすぐ前にあるもので、私が勤務していた時も工事が行われていました。写真は完成した門とその説明文です。本丸の正門にふさわしい重厚感のある壮麗な佇まいとなっているそうです。

